

まゆみ 様  
愛用ミシン:セシオ 9700

### ミシンといっしょにこれからも

私が幼い頃より 母はカタカタカタ…とジャノメさんの足ふみミシンを愛用し昭和 40 年代から 50 年代、私や弟のお洋服や学校で必要な袋物などを、手早く 時には鼻歌を歌いながら楽しそうに ミシンをはしらせ仕上げていく様子に

『お母さんもミシンもすごいなあ…』と思いながらミシンをすすめる母のそばで その姿をいつまでも じーっと見つめているような女の子でした。


その足ふみミシンを私が引き継ぎ

『将来、女の子のお母さんになってお揃いのお洋服を作れたらステキだなあ…』とミシンと一緒に叶えたい私の小さな夢もでき 私が 20 歳をすぎて時代は平成へ。

社会人となり、お給料で初めて買った念願のコンピューターミシンが私のもとに来てくれてからもう 30 年以上の時が流れ、ミシンも 3 台目になりました。

平成はじめ頃から、仕事を終えて通う週 3 回の洋裁教室でブラウス、スカート、ワンピースなど次々と楽しくミシンで縫い上げました。

同居していた祖母には、自転車に乗りやすいように少し丈が短めなワイドパンツを。同じ型紙で布地を夏物は木綿で、冬物はウールに裏地を付けて何枚か縫うと



『こんなズボンが おばあちゃん、ずっと欲しくて。でもお店には おばあちゃんに合うのが売ってなくてねえ…縫ってくれて嬉しいよ～おおきに』と大変祖母に喜ばれ、一年中 毎日のように着てくれていました。

私が小さい頃からご飯を作ってくれたり一緒に過ごした時間も多く、とてもおばあちゃん子だった私。喜んでもらえて、ほんの少しだけミシンで恩返し出来たかな。でも私の結婚式の直前、2週間前に急逝した祖母…手作りのウエディングドレスでお嫁入りして、女の子二人のお母さんになった私を 今も天国から見ているかな…上の娘は、令和元年に大学生になりました。

令和2年、新型コロナウイルスが猛威をふるいお店にマスクが品薄や欠品となり大変困り、急ぎよ初めて布マスクをミシンで縫いました。

表地はお気に入りの可愛い布地で、裏地には、さらしを合わせて清潔でお肌にやさしく、鼻のところにノーズワイヤーを入れた『大臣マスク』は息もしやすく、家族や友人知人にプレゼントすると大変喜ばれミシンでお役に立ててうれしく思っています。

ミシンで縫えば、困ったときでもお互い助け合うことができますね。

ジャノメさん創業100周年おめでとうございます。いつもお世話になっているミシンに愛と敬意を込めてありがとう。

これからも末永くどうぞよろしくね。